

私市総集編「磐船街道周辺史跡探訪」

講師：村田 義朗

地名:私市

考歴民（平田政信氏著）参照

私市の地名と地図

交野市には、私部(きさべ)、私市(きさいち)という変わった地名がある。どちらも非常に古い地名で、その歴史と成り立ちは私部の発生と同時期で、敏達(びたつ)天皇(572~585)のころである。

豊御食炊屋姫(とよみけかしきやひめ)が皇后になってから、皇后領として皇后のための部曲(かきべ)として私部であった。

その後、大化改新(645年)を機に律令体制へと進み、天野川筋の農耕地は条里制の施行とともに交野の村人は班田農民となっていく。

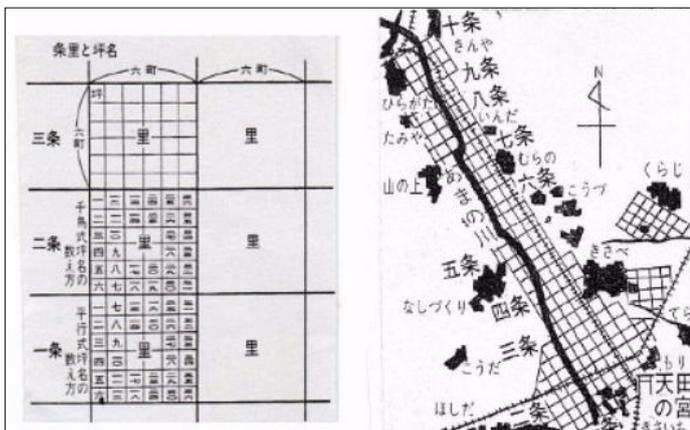
そうすると私市は条里の始まりから天野川筋の中心的集落となって、私部内(きさべうち)・私市となっていく。



平安時代後期の交野地方の想像復元図

中世以後は、交野は東高野街道や山根街道などの発達から、中心は天野川の中、下流へと移っていき、私市は、かつての繁栄は失っていったと思われる。

ただ、磐船神社や獅子窟寺といった信仰から、お参りする人の往来、熊野参り奈良への通行者などで人の往来は、とだえることはなかったであろう。 河内名所図会



その後、班田制の崩壊とともに新たに荘園が生まれ、発展していく。交野でも三宅山(私部山・寺・森・私市・星田山一帯1429町)が石清水八幡宮に寄進され、広大な荘園ができる。

また、荒地が開墾されて墾田となり、田畑が増加すれば生産も増え、人口も増大する。

物資の交流も盛んとなる。私市は、大和と結ばれる磐船街道筋であり、山麓の村としての市場町ともなりえた。

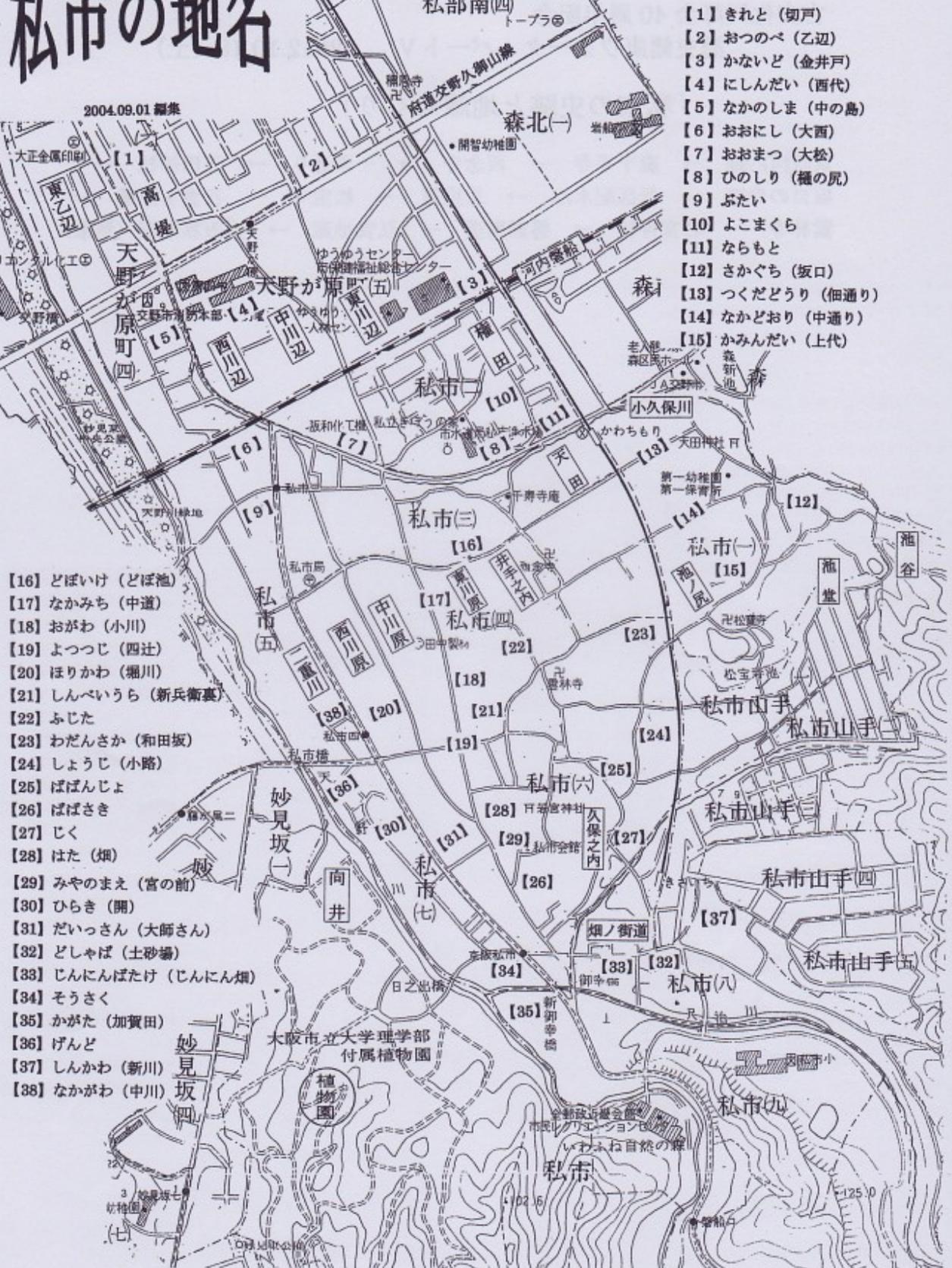


磐船神社



私市の地名

2004.09.01 編集



地名を調べるのは「見る、聞く、歩く、撮ると書く」と言われています。

まず、近くからはじめたら、いままで物言わぬ「地名」が、何か語りかけてくれました。

諸先輩が残して下さった地名を「555」のメンバーで再確認、再認識していきます。

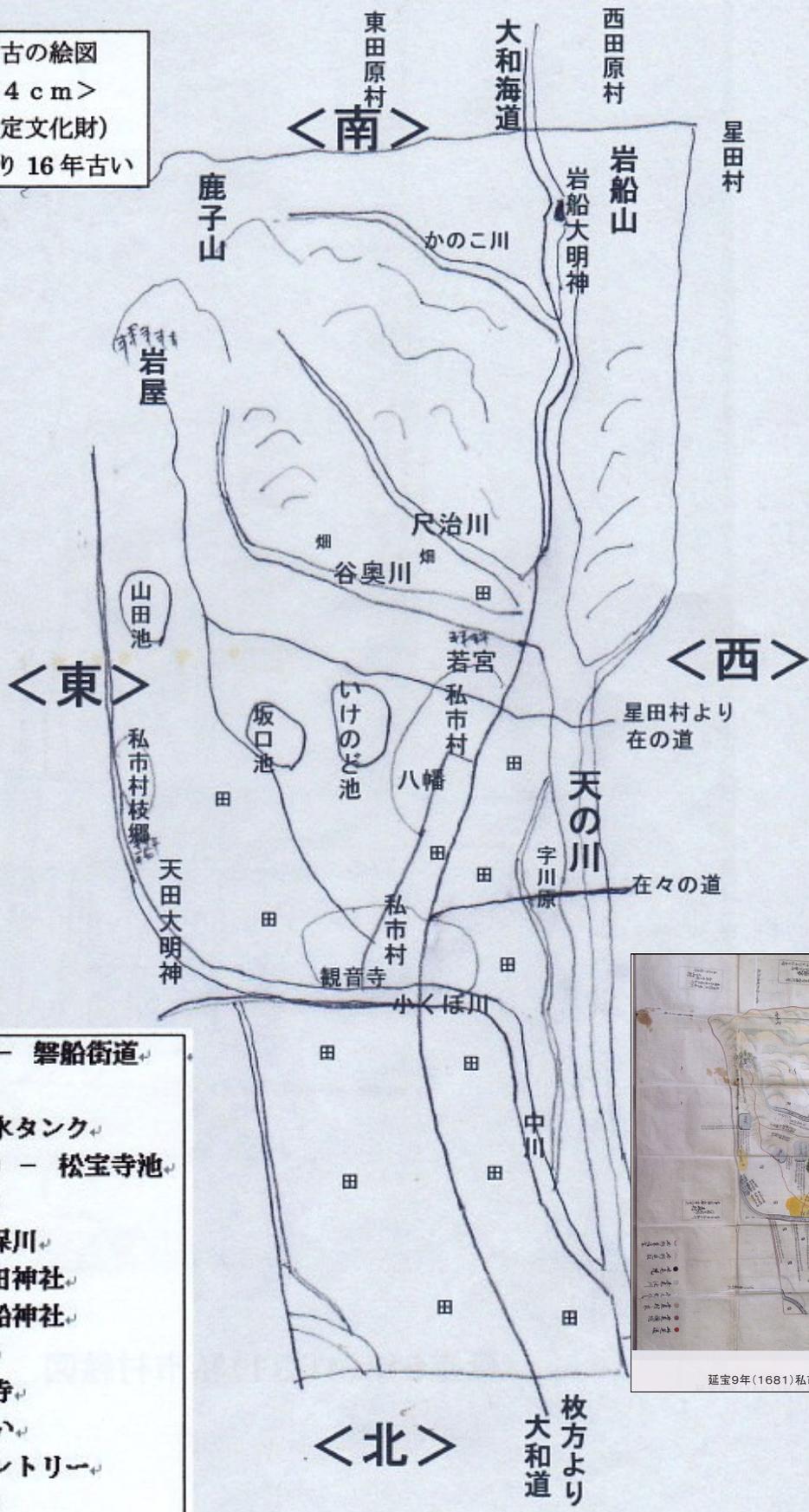
平田政信氏 作成

(2004.09 末現在間違っている所があれば教えて下さい)

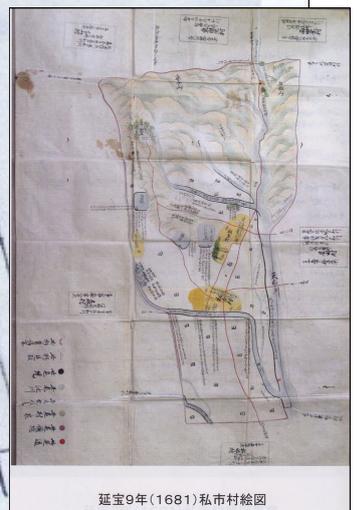
延宝9年(1681)私市村絵図

交野市に現存する最古の絵図
 <縦80cm×横114cm>
 星田村地図(交野市指定文化財)
 元禄10年(1697)より16年古い

私市村領主 設楽肥前守殿
 与力知行役所へ提出した絵図
 私市村庄屋仁左衛門
 年寄清兵衛・同次左衛門



- 大和道(大和海道) - 磐船街道
- 山田池 - 現存
- 坂口池 - 低区配水タンク
- いけのど池(池堂池) - 松宝寺池
- 谷奥川 - 土生川
- 小くぼ川 - 小久保川
- 天田大明神 - 天田神社
- 岩船大明神 - 磐船神社
- 若宮 - 若宮神社
- 観音寺 - 鹿千手寺
- 八幡 - 現存しない
- 鹿子山 - 私市カントリー
- 岩船山 - 噂ヶ峰



延宝9年(1681)私市村絵図

私市エリア

天野川から開けた文化と歴史、いにしえ人の想い。役行者の開山と伝わる獅子窟寺の国宝・薬師如来坐像や磐船神社と哮ヶ峰に伝わる神話がいっぱい。

古代天野川地方条里区画一条通遺跡

奈良時代、天野川周辺は稲作の一等地として条里制が敷かれ、私市を一条通りとして北へ枚方市まで十条通りと区画整地されました。天田神社の西にある鳥居をくぐって左に100メートルも行く、東西に伸びる道が現れますが、それが一条通りです。

天田神社

天田神社は私市、森の氏神社。このあたりは水がよく行きわたり、稲作には申し分のない良田でした。有難い田だとの感謝の祈りを込めて、田の上流に宮を建てて田の神を祀ったのが天田の宮の始まりです。



獅子窟寺

役行者が開山し、聖武天皇の勅命により行基が金剛般若窟の寺号で創建したとされる。本尊の薬師如来坐像は弘仁



期（810）824（の作）で、大阪府内で5件しかない国宝の仏像です。

亀山上皇の帰依により14世紀には山内に遺る巨石群が示すとおりの隆盛を極めていた寺院であった



*王の墓

仁王門跡を左へ山道を下り六体地藏の前を抜けると、亀山上皇と皇后の供養塔・王の墓が重厚なたたずまいを見せている。



81）のお地藏さんで、昭和36年10月、大阪府指定文化財・重要美術品に指定されています。

弘安地藏

弘安地藏は私市共同墓地に安置されています。府内で最古の銘「弘安4年（12



磐船街道

枚方市岡本町の「宗左の辻」で京街道から分かれ天野川に沿って磐船神社の前を通って、生駒市北田原町へと通じる。大和と交野を結ぶ重要な道の一つであり、私市の旧道の入口に道標としては珍しい六角形のもので、常夜灯とともに保存されている。ここは「かいがけの道」の分岐点である。



◆私市水辺プラザ

天野川沿いには「尺治川砂防堰堤」「尺治川床固工」「天野川砂防堰堤」などの国登録有形文化財が保存されている。



降臨伝説・哮ヶ峰

ほしだ園地のクワイミングウォール近くにそびえる標高168mの断崖絶壁の山。「先代旧事本紀」には饒速日命が降臨した場所だといわれている。



磐船神社

ご神体は舟形をした高さ12mもの巨岩。物部氏の祖先である饒速日命（にぎはやひのみこと）がこの天の磐船に乗って天下つたと伝えられています。



境内には「四社明神」や「天文一四年（一五四五年）、十二月吉日法印清忍」の銘のある「不動明王石仏」がある。

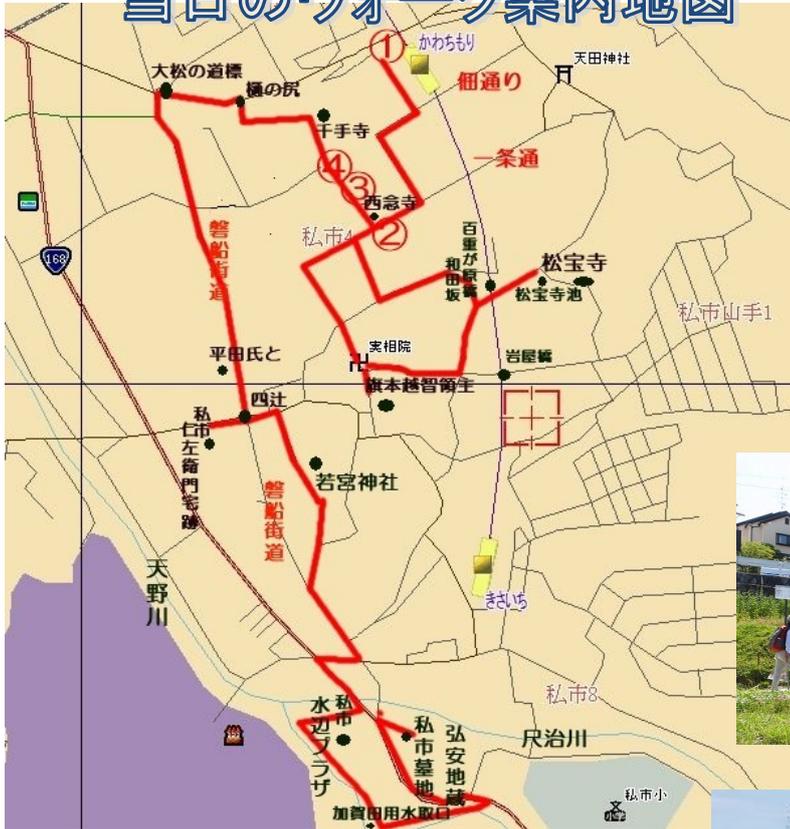


*鮎返しの滝

天野川が磐船峡から平野に流れ出す段差の高いところにあります。落差約8メートル、約7メートルの一枚岩を激しく流れ落ち、昔から鮎の遡上も許さない難所とされます。



当日のウォーク案内地図



「石鏃174号」参照



松宝寺と池



わだん坂を上る



雲林寺から北へ田圃道を歩く

- 石標(道しるべ)
- ①石清水八幡宮三宅山荘園墾田遺跡碑
 - ②古代天野川地方条里区画一条通遺跡碑
 - ③石清水八幡宮三宅山荘園佃之跡碑
 - ④此付近亀山上皇駐蹕私市観音寺跡



若宮神社でストレッチ体操

磐船街道と私市周辺を探訪



西念寺



磐船街道を歩く



平安時代後期の交野地方想像復元図 (片山長三氏)



河内森駅付近 (昭和50年頃)

百重ヶ原橋

獅子窟寺王の墓付近よりの眺望が、幾重も重なって見える所。京阪交野線に架かる橋。

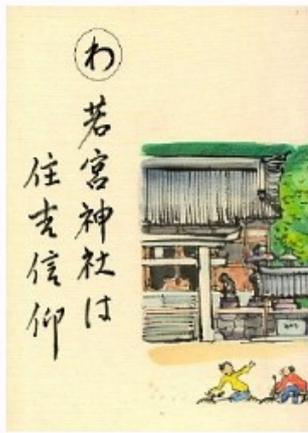
若宮神社

私市は昔から一村二社となつています。

江戸時代、私市村は磐船神社を総社としていま

したが官座争いがあつてまらず、その分霊を持ち帰り、村の入口に宮を建て祀つた。

天田宮があつたので、後から出来た宮、若い宮と名付けた。



弘安地蔵 (私市共同墓地内)

「私市共同墓地」に弘安地蔵さんが安置されています。

このお地蔵さんは、府内で最古の銘「弘安4年(1281年)」を持つお地蔵さんで、昭和三十六年十



月、大阪府指定文化財・重要美術品に指定されています。

弘安地蔵さんは、右手に錫杖を持たない古い形式のもので、頭上とその左右には「右ハ為二淨林淨雲一石作三郎」「弘安四年四月十五日立之」、地蔵菩薩を示す梵字「ガ」が彫られています。像の右側には「石作三郎」と石工の銘が確認できま



別名「杖あずけの地蔵」さんとも呼ばれていた。生前身につけていたものをこの地蔵にあずけて身軽になつてお墓に入る。

人が亡くなると、生前、身につけていたものを地蔵堂に預けることで、早く極楽に導いてもらいたいという願いからかもしれません。

庶民の願いを聞いてくださるありがたい仏さまとして、今も大切にまつられています。

拓本により年代・弘安四年(12



81)の年号が読み取れた。それ以後、年号の弘安から「弘安地蔵さん」と呼ばれるようになった。

※「弘安の役」元は1279年南宋を滅亡させ、1281(弘安4)第2次日本遠征を決行した。元・高麗の東路軍4万2000は5月に合浦を出発し、対馬・壱岐を襲い、博多をめざしたが防塁と日本軍に阻まれ上陸できなかった。一方、旧南宋軍を主体とした江南軍10万は、遅れて中国の慶元を出発し、平戸付近で東路軍と合流。7月30日、平戸から鷹島へ移動していた元軍を大暴風雨が襲い、元軍は壊滅的な打撃を被った。

